

特集「マルチメディア分散・協調コンピューティング」の 編集にあたって

柴田 義孝^{f1} 滝沢 誠^{f2}
岡田 謙一^{f3} 菅野 政孝^{f4}

21世紀の高度情報化社会の実現に向けて、高速ネットワークを基盤とする分散処理、マルチメディア通信、グループウェア等を中心とした新しい分散システムの枠組みとして『マルチメディア分散・協調コンピューティング』の研究が求められてきております。このようなテーマについては、情報処理学会の『マルチメディア通信と分散処理』(DPS)研究会、『グループウェア』(GW)研究会などが中心となり、これまでに、各々毎年100~150件程度の優れた論文が研究会およびシンポジウムで発表されてきております。研究会員数も、DPS研とGW研は、ともに500名以上あり、活発な活動が行われております。1996年6月には、情報処理学会とIEEEコンピュータサイアティ(CS)の共催により、並列・分散システムに関する国際会議ICPADS'96(International Conference on Parallel and Distributed Systems)が東京で開催され、200人以上の参加と72件の優れた論文が発表されております。韓国、台湾等のアジア地区の国々を中心として生まれた国際会議ICOIN(International Conf. on Information Networking)も、情報処理学会、IEEE CS、IEEE Taipei Section、韓国情報処理学会(KISS)等と共催または協賛で毎年開催されており、1997年1月にICOIN-11が韓国で開催され、分散処理に関する77件の最先端の論文が発表されました。さらに、ICOIN-12が1998年1月に郵政省通信総合研究所(CRL)開催され、150件近い論文が発表され

ております。このように、この分野は、通信プロトコル、インターネット、マルチメディア通信、QoS管理、高速通信から、分散協調システム、グループウェア、モバイルシステム、マルチメディアエージェントシステムといった分野を含み、幅広く活発な研究がなされています。これまでに、こうした国際会議、研究会で発表された多くの論文が、国際会議、研究会での議論をもとにして改善され、多種の論文誌に発表されていますが、情報処理学会の論文誌に発表するものが多いといった状況があります。こうしたなかで、これらの国際会議(ICNP、ICPADS、ICOIN等)、研究会、シンポジウムで発表されたものを発展させた優れた論文を一括掲載することにより、この分野の研究を推進し、その発展に寄与することは、情報処理学会として大変意義のあることと考えます。このようなことから、『マルチメディア分散・協調コンピューティング』特集を企画いたしました。1997年の5月中旬までに論文投稿を受け付け、合計で51件の優れた論文の投稿がありました。論文誌の委員会で通常の論文と同じく査読を行い、この中から31件が特集号の論文として採録されました。

本特集が、本分野の発展に少しでも貢献できるならば、望外のことであります。最後に、論文の投稿をいただいた著者の方々、論文の査読をいただいた査読者の方々に感謝いたしたいと思います。

f1 東洋大学工学部情報工学科

f2 東京電機大学理工学部経営工学科

f3 慶應義塾大学理工学部計測工学科

f4 NTTデータ通信株式会社技術開発本部